

平成26年8月25日

玉名市長 様

団体名 玉名荒尾の戦争遺跡をつたえるネットワーク

代表者名 代表 松本重美

平成26年度玉名市人材育成基金助成金事業成果報告書



平成26年7月25日付け玉市企第271-1号で助成金交付決定を受けた事業が完了したので、下記の通り事業成果を報告します。

記

1 活動の状況

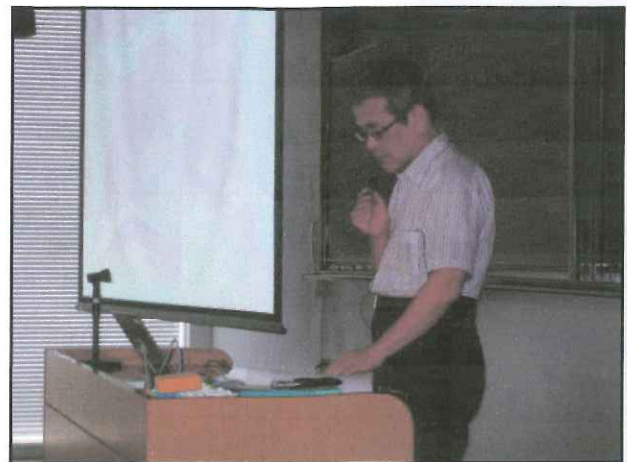
団体名	玉名荒尾の戦争遺跡をつたえるネットワーク
活動テーマ	玉名・荒尾地域に残された戦争遺跡を‘平和をつたえる貴重な文化遺産’として将来につたえ、世代や地域を超えた新たなネットワークをつくり‘まちづくり’を進める活動
完了した事業成果	<p>①全国の戦争遺跡調査研究及び保存についての現状理解 「今こそ戦争遺跡を平和のための文化財に！」をテーマにして、本大会への参加は全国からこれまでで最も多い450有余名であった。戦後69年、戦争体験者が減少するなか、戦争遺跡が次代の“語り部”になるという共通認識の下、保存・活用へ向けて行政と住民の協力が必要であるとの認識が改めて示された。 全国の戦争遺跡の指定登録等は216件である。玉名の取り組みも含めて、最新の保存活動事例24例が紹介された。</p> <p>②保存活動や地域づくり事業の具体的手法の獲得 特に地域づくりの手法としては、「登戸研究所保存の会」事例として、「地域に根ざし、戦争が生みだす事実を見ずえる拠点に！」の取り組みが紹介された。ここでは、偽札製造木造棟の保存を、明治大学に要望し、川崎市に署名陳情を行った活動が端緒となった。その後、子ども向け冊子、観光協会との街づくりシンポの開催、毎年平和展、大人向け冊子の刊行等を進め地域啓発を進めてきた。手法としても大いに参考としたい。 玉名市においても、玉荒戦跡ネットが玉名歴史博物館の会場を借用し、今夏に「海軍艦上爆撃機“流星”風防の展示・公開」を進めた。大村の第21海軍航空廠に派遣された高瀬高女挺身隊員の証言聞き取りのなか、地域の戦争遺跡や遺物を示し、平和の大切さを伝える啓発活動を進めた。全国の事例にさらに学びたい。</p> <p>③熊本県及び玉名地域の戦争遺跡をとおしての事業状況の啓発 今回、第2分科会「調査の方法と整備技術」の部会で「海軍艦上爆撃機“流星”風防の発見と県内航空機遺産の保護」を発表した。流星の概要、風防の比定、熊本県内航空遺産の状況や分布を示し、会活動の啓発も行った。</p> <p>これら3つの事業成果により、全国の戦争遺跡の調査状況や全国の地域づくり事業の概要が把握できた。</p>
今後の課題 将来計画等	玉名地域においては、昨年2月に刊行した大浜飛行場リーフレットが好評であることから、大浜飛行場の小中学生向けリーフレットの刊行を目指したい。



①第18回戦争遺跡保存全国シンポジウム神奈川川崎大会の会場  
：明治大学生田キャンパス



②第18回戦争遺跡保存全国シンポジウム神奈川川崎大会の会場風景  
：明治大学生田キャンパス中央教室



③第18回戦争遺跡保存全国シンポジウム神奈川川崎大会  
第2分科会 高谷発表の様子 (平成26年8月17日)

④明治大学内旧登戸研究所フ  
ィールドワークの様子  
：36号建物外観  
(平成26年8月18日)



⑤明治大学内旧登戸研究所フ  
ィールドワークの様子  
：屋内展示の様子

⑥旧調布飛行場高射砲陣地での  
フィールドワークの様子



⑦旧調布飛行場有蓋掩体での  
フィールドワークの様子

⑧旧日立航空機立川工場での  
フィールドワークの様子



⑨砂川米軍基地闘争での現地  
フィールドワークの様子

「海軍艦上爆撃機「流星」風防の発見と県内航空機遺産の保護」補足資料

[熊本県] くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク

(旧・玉名荒尾の戦争遺跡をつたえるネットワーク) 事務局長 高谷 和生

流星風防発見の報道資料

[資料 1]

平成26年(2014年) 2月24日 月曜日 熊本日日新聞

公明党熊本県連代表の岡田 幸三(左)と、八代市



# 海軍機「流星」風防を発見

熊本の戦争遺跡研究会(なつはる会)は20日、旧日本海軍の艦上爆撃機「流星」の機体部分と風防の副産物が八代市内で見つかったと発表した。同研究会理事の高谷和生さんと熊本産業遺産研究会前会長の松本世二さんが発見し、特定した。

## 八代市 国内唯一の実物資料



長崎県大村市の第二十一海軍航空廠で生産され、水軍工廠で破壊された工場施設と「流星」(熊本県・八代市)の機体。右山氏(右)が提供。

同日(20日)と関係なく、空軍に上機が分散する市内の男性が譲り受けた。国内で流星に関する実物資料が保管されている。風防は、八代市井上は初めて、既述は今年に同時であった。風防は戦時中、戦艦の八代工場生産した。八代市井上は「流星」機体の一部を譲り受け、現在は八代市で保管されている。

風防は機体の前方部分で、機体の前方部分に設置されていた。風防は機体の前方部分に設置されていた。風防は機体の前方部分に設置されていた。

- [資料 2] 流星写真・図面
- [資料 4] 八代工場略配置図等
- [資料 5] 第二十一海軍航空廠配置図等は、別冊子『いま熊本の戦争遺跡・遺産を未来につたえる』を参照

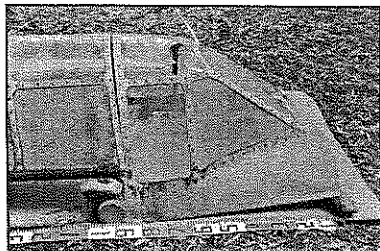
# 海軍艦上爆撃機「流星」の風防について 写真図版 1

くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク事務局長  
肥後考古学会 幹事 高谷 和生

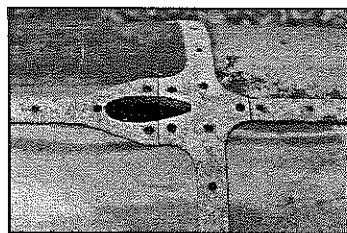
平成26年8月16日

## 資料の価値

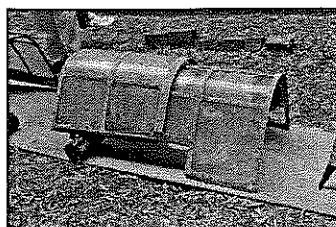
- ①本資料は海軍艦上爆撃機「流星」の風防です。※国内初資料
- ②本資料は「三陽航機株式会社八代工場」で生産された未使用品、ほぼ完品資料です。



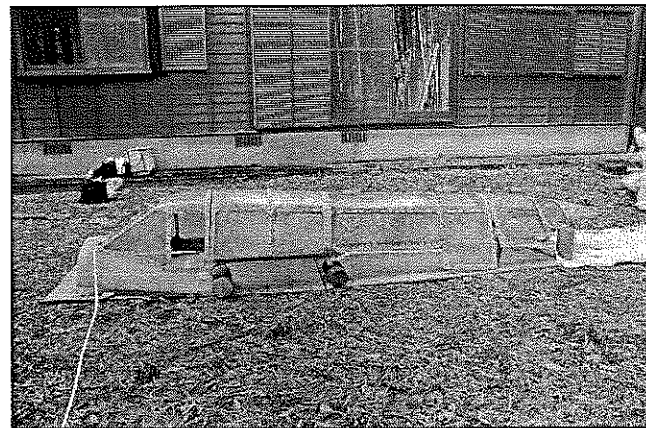
□第1パーツ：操縦席前面部（右側部）  
板上の無機（珪酸・シリカ）ガラスは  
前面1枚、左右の二分割で計5枚であ  
る。ガラスは1枚破損しており、H型  
ゴムダンパーで機体側に埋め込む。



□天井部の無線機支柱の穿孔  
形状は楕円形で、右側が機首側と  
なり先端が細くなる：横8 cm ×  
縦4 cm

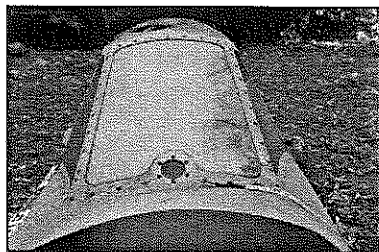
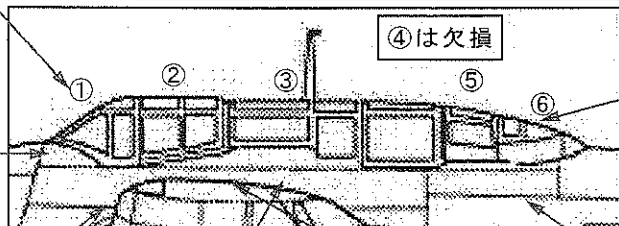


□第3パーツ部にスライドさせた第  
2パーツ（操縦席風防）を被せる。  
鉄製ヒンジ長5 cmで後席側の  
1箇所のみ

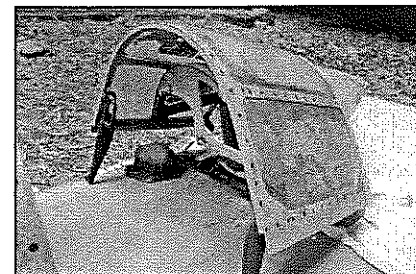


□艦上攻撃機「流星」左側面写真  
①操縦席前面部：第1固定風防 ②操縦席部：第1可動風防  
③中央部：第2固定風防 ④後部乗員席部：第2可動風防：欠損  
⑤乗員席後方部：第3可動風防 ⑥最後方部：第4可動風防

□現存長で410cm、最大幅80.0cm、最大高80.0cm



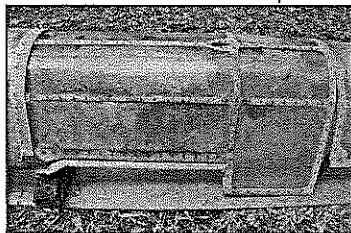
□第1パーツ部：操縦席前面部  
前面1枚物の板上有機ガラス。下段に  
はエアダクト取り付け部の円形穿孔  
あり。



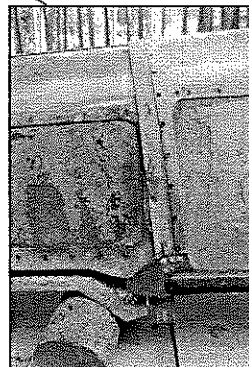
□第5パーツの機体内部格納用に用いる  
の長短2種ヒンジの各2本が見える。



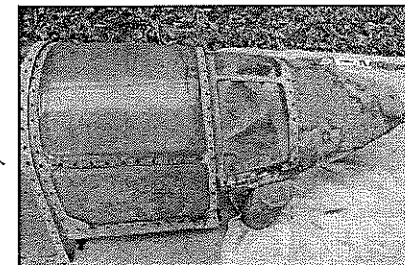
□第1～第3パーツ部まで  
割れた操縦席左側から、後方まで操縦  
席風防をスライドさせる。第3パーツ  
内部には、前後席仕切り用のアクリル  
板が設置されている。



□第3パーツ部：中央部  
第2パーツの操縦席風防がスライドでき  
るように、最下部にジュラルミンスライ  
ドレールを設置。天井部には無線機支柱  
設置用に穴が穿孔。

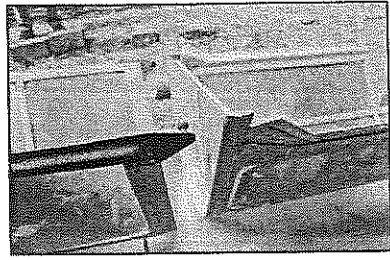


□第3パーツ部（右側部）  
第2パーツの操縦席風防鉄製金具・丸型  
鉄ヒンジと第3パーツ中央座席部の最下  
部スライドレールへの装着状況。

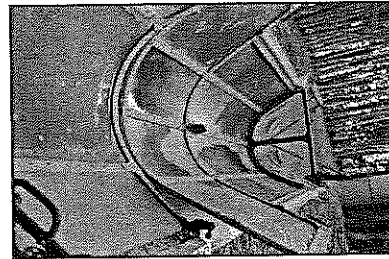


□第5パーツ、第6パーツの接点状況  
断面形状も曲線形状も合致する。

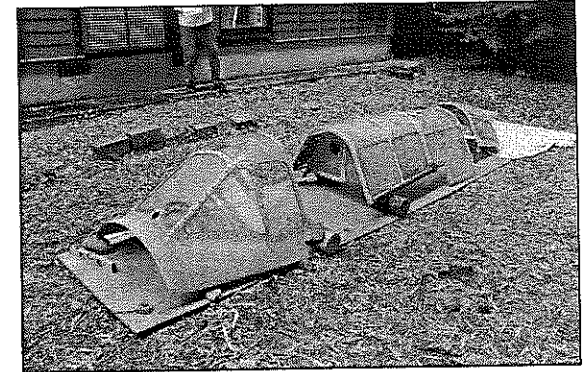
海軍艦上爆撃機「流星」の風防について 写真図版2



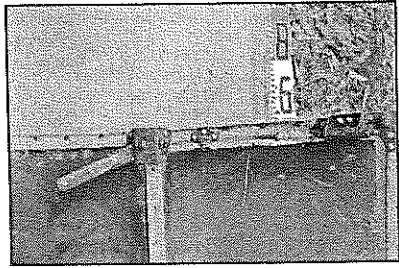
□第②(左)・第③(右)パーツの内部状況  
第②パーツ下端の鉄製補強部、第③パーツの内部仕切り部の構造がわかる。



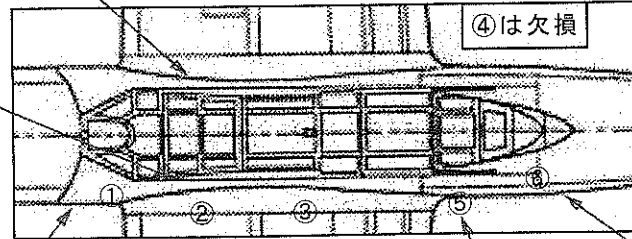
□風防内部状況と調査状況  
左：機首側より 残存長4.10mを計る。  
右：尾翼側より機首側を見る。内部仕切り状況が判明



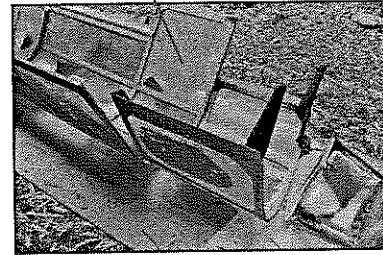
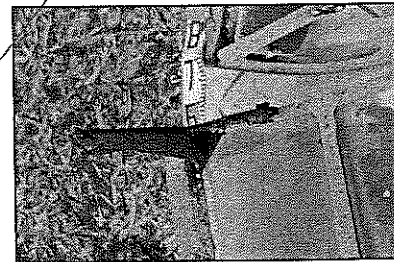
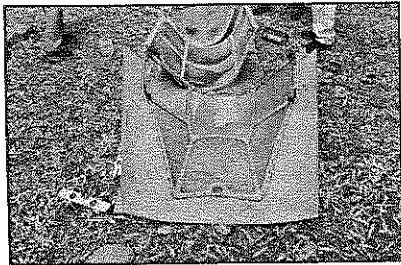
□艦上攻撃機「流星」オープン時左側面写真  
①操縦席前面部 ②操縦席部は③中央部へ被さる。  
④後部乗員席部：欠損  
⑤乗員席後方部は、欠損の④後部搭乗席前部の内側に入る  
⑥最後方部は旋回機銃使用時に180度回転する。



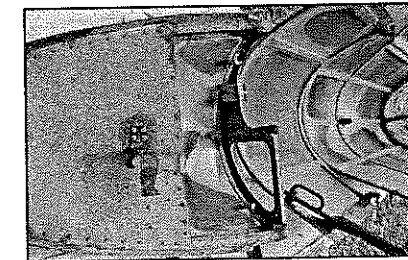
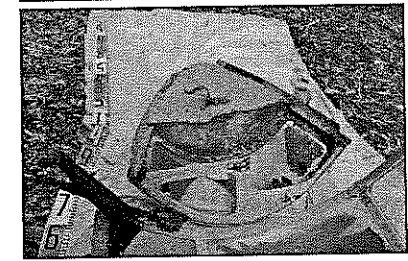
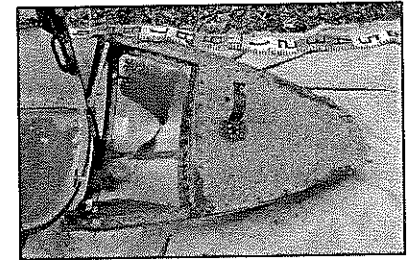
□第②パーツの内部の木製取っ手と金具状況  
取っ手からのワイヤー中継ローラーを通り、風防固定具につながっている。



④は欠損



□第⑤パーツの内部状況  
内部にはスライド用上下段の各2本鉄製ヒンジが確認できる。  
機首側が長く17.0cm、尾翼側が短く5.0cmを計る。先端部は球形に加工させ、短ヒンジには固定用垂直レバーも設置されている。  
本風防は機体側に設置された金具にヒンジを引っ掛けて前方部にスライドし、第④パーツの下側に重なり、対空機銃射界を確保する。



□第⑥パーツの内部状況  
13.2mm機銃固定用の鉄製金具が現存する。  
内部には、本風防を回転格納させるためのワイヤー・ローラー等が残される。

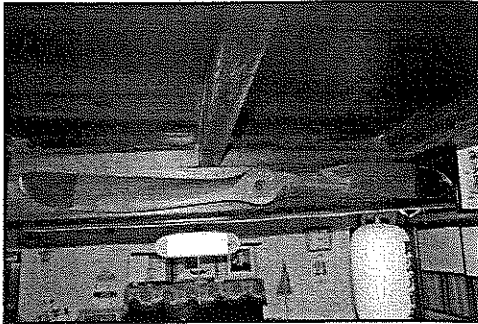
問い合わせ先・連絡先  
くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク事務局長 高谷 和生  
自宅/〒865-0061 熊本県玉名市立願寺126-5  
TEL&FAX 0968 74-5030  
Eメール takayanagi912@yahoo.co.jp

□第①パーツの内部状況(上)と鉄製金具の拡大状況(下)

(1) 明治・大正・昭和初期の資料

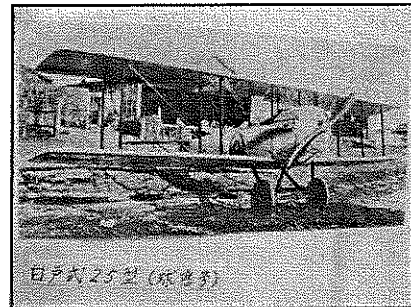
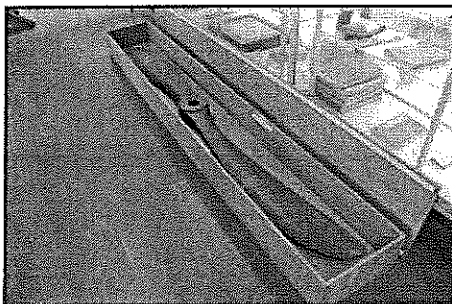
①八代市鏡屋旅館所蔵二翔木製プロペラ

- ア 所在地：熊本県八代市日奈久361番地。鏡屋旅館：民間飛行士の嶋田武男氏生家
- イ 概要：木製二翔、軸受け穴6個、先端部25cmは繊維貼り黒色塗布。全長205.0cm、全幅17.0cm、中心軸孔直径4.5cm、軸受直径14.0cm。右側に大きな破損痕跡あり。
- ウ 刻印：刻印はなし
- エ 時期・由来等：他旅館より譲渡、詳細不明
- オ 該当機：不明



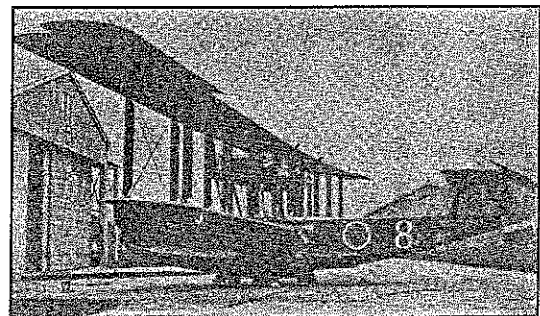
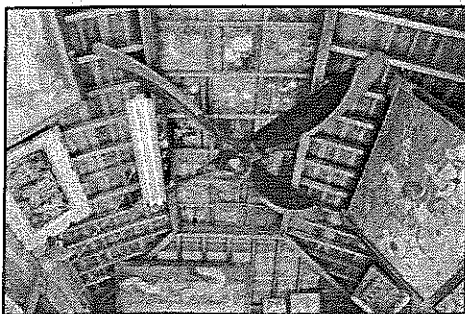
②八代市日奈久小学校所蔵二翔木製プロペラ

- ア 所在地：熊本県八代市日奈久竹之内町4277-1。日奈久小学校。
- イ 概要：木製二翔、軸受け穴8個、先端部（V字形）25～33cmには、繊維貼り黒色塗布の痕跡あり。全長260.0cm、全幅19.0cm、厚さ10.0cm、材集成は5枚。中心軸孔直径7.5cm、軸受直径18.0cm
- ウ 刻印：金色四角囲いで3段の文字あり。刻印はなし。上段：大字で3文字「所」「作」もしくは「休」か「改」か。行間に金直線引き。中段：中文字で6文字「所」「火」「代」「長」「藤」「加」。下段：小字で11文字、「北」□□「町」□「所」□□「市」「京」「東」
- エ 時期・由来等：昭和12年、白戸民間飛行場より譲渡
- オ 該当機：不明



③和水町竈門神社所蔵木製四翔プロペラ

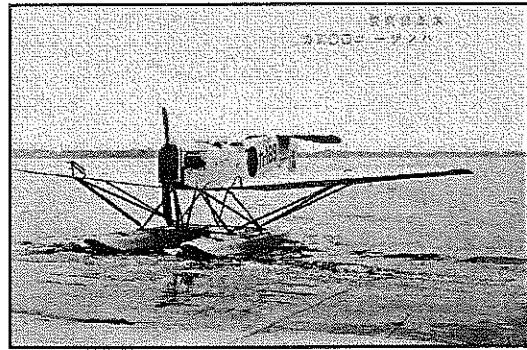
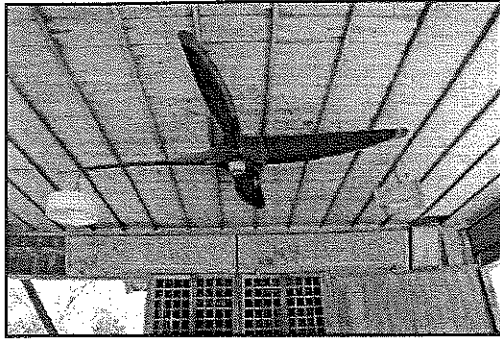
- ア 所在地：熊本県玉名郡和水町竈門（かまど）
- イ 概要：木製四翔。軸受け穴8個、先端風切り部は真鍮製、繊維貼り黒色塗布、全長360.0cm。
- ウ 刻印：F5、ロールスロイス、360HP、AICHI社印 他
- エ 時期・由来等：昭和2年の魚雷・砲弾等とともに奉納。奉納者は大久保清喜中尉。
- オ 該当機：フェリックスF5飛行艇



④和水町大久保公民館所蔵木製四翔プロペラ

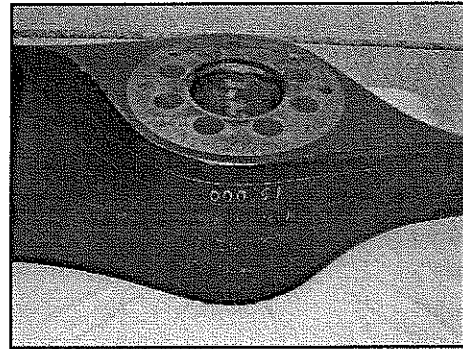
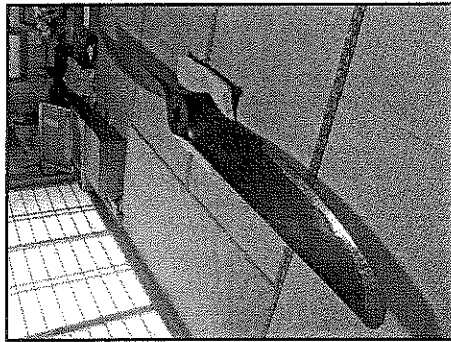
- ア 所在地：熊本県玉名郡和水町大久保
- イ 規格：木製四翔、軸受け穴8個、先端風切り部は真鍮製、繊維貼り黒色塗布、全長280.0cm

ウ 刻印等：A I C H I 社印、ヒ式200HP 他  
 エ 時期・由来等：昭和初期奉納か。奉納者は大久保清喜中尉。  
 オ 該当機：ハンザブランデンブルグW29飛行艇



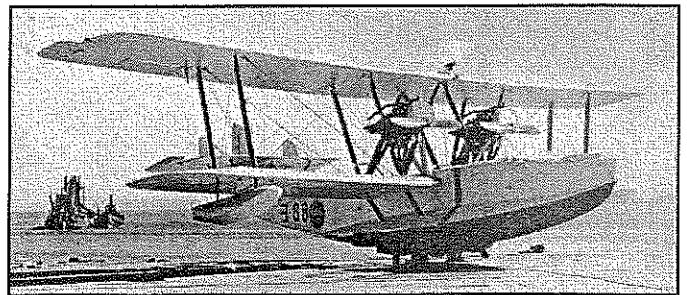
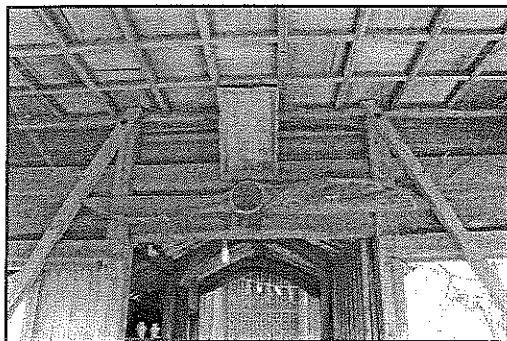
⑤和水町高木氏所蔵二翔木製プロペラ

ア 所在地：熊本県玉名郡和水町竈門（かまど）。高木繁男宅  
 イ 規格：木製二翔。軸受け穴8個、先端部繊維貼り黒色塗布あり。全長290.0cm、全幅20.0cm、厚さ10.0cm、材集成は9枚。中心軸孔直径8.5cm、軸受直径21.0cm、自重15.1kg。  
 ウ 刻印：海軍マーク、A I C H I 社印、ヒ式200HP、愛知No310 他  
 エ 時期・由来等：高木軍司氏が自宅に持ち込む  
 オ 該当機：ハンザブランデンブルグW29飛行艇



⑥山鹿市某神社所蔵二翔木製プロペラ

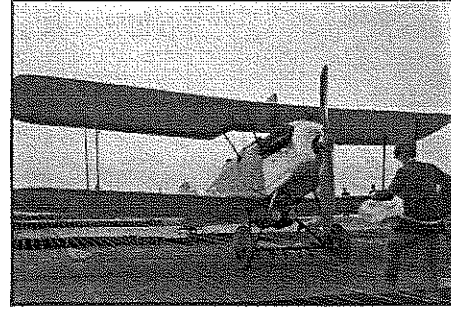
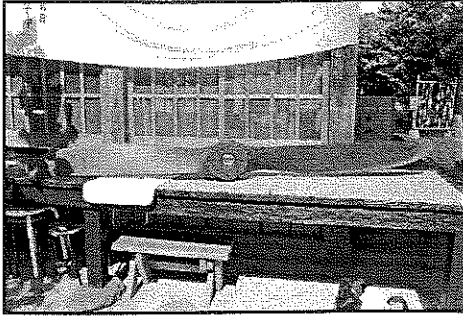
ア 所在地：熊本県山鹿市 某所  
 イ 規格：木製二翔、受け穴8個、風切り部は真鍮で補強。全長320.0cm  
 ウ 刻印等：廣海軍工廠マーク、型式壱五型 他  
 エ 時期・由来等：奉納時期、奉納者は不明。  
 オ 該当機：一五式飛行艇



⑦益城町津森神宮所蔵二翔木製プロペラ

ア 所在地：熊本県上益城郡益城町寺中  
 イ 概要：木製二翔、受け穴8個、風切り部は真鍮で補強。全長270.0cm、全幅18.0cm、自重15.1kg。  
 ウ 刻印等：A面「海軍錨マーク」「佐兵76」「十艦上戦」「ヒ式」「H.P.300」。B面「R. 1.800」「D. 2668」「P. 19.00」「W. 1.4750」「4.8。」  
 エ 時期・由来等：昭和13年以降で、機体と一緒に海軍中尉澤田末雄が奉納。  
 オ 該当機：一〇式艦上戦闘機





⑧人吉市原田菅原神社所蔵二翔木製プロペラ

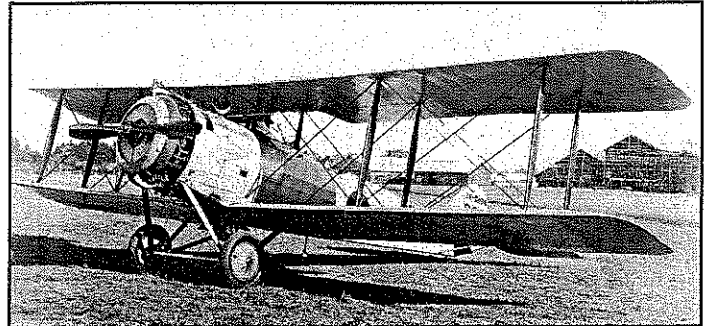
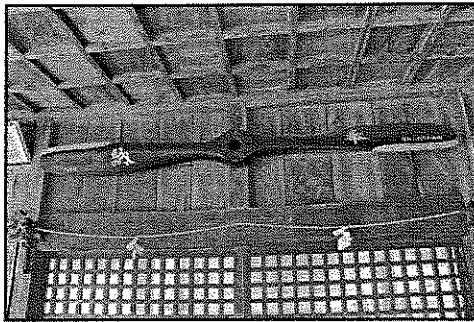
ア 所在地：熊本県人吉市

イ 概要：木製二翔、軸受け穴8個、風切り部はアルミニウムで補強。全長274.0cm、全幅22.5cm、中心軸孔直径7.0cm、軸受直径20.5cm。篆刻 右側「奉」「昭和御大禮之佳節 ※書体は右から左へ」、左側「納」「若竹氏 ※書体は右から左へ」

ウ 刻印等：A面「乙式 1型」「サ式 230HP」「福」「NO 320」、B面「昭和3年2月」「日本楽器會社製作 ※現ヤマハ株式会社」、軸受部「330」「福」

エ 時期・由来等：昭和3年若竹又男陸軍中尉奉納

オ 該当機：乙式一型偵察機（サルムソンSalmsen 2）



⑨天草市旧志垣尋常小学校木製四翔プロペラ

ア 所在地：熊本県天草市今釜新町3706。天草市立本渡歴史民俗資料館所蔵

イ 概要：木製四翔。軸受け穴8個、先端風切り部は真鍮製、繊維貼り黒色塗布、全長370.0cm。

ウ 刻印等：F5、ロールスロイス 他

エ 時期・由来等：志垣尋常小学校に昭和初期に寄贈。寄贈者は不明。

オ 該当機：フェリックスF5飛行艇



(2) 太平洋戦争期の資料

①陸軍四式重爆撃機“飛龍”の機体、計器他

ア 所在地：熊本県菊池郡大津町引水1568-1 大津町文化財学習センター所蔵

イ 概要等：陸軍四式重爆撃機“飛龍”機体部品

ウ 時期・由来・該当機等：昭和20年7月5日、阿蘇北向山に墜落機。陸軍健軍飛行場駐屯の飛行第60戦隊所属機。機番等は不明。

②小型軍用機車輪

ア 所在地：熊本県八代市西松江城町12-35 八代市立博物館

イ 概要等：八代妙見祭の笠鉾「西王母」台車の車輪

ウ 時期・由来・該当機等：昭和22年市民寄贈により笠鉾台車の車輪として平成22年まで使用。小型軍用機。三陽航機八代工場の使用資材